

介護保険法に基づく指定居宅サービス事業者の指定の申請者に関する事項並びに指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例施行規則をここに公布する。

平成二十五年三月二十八日

広島県知事 湯 崎 英 彦

広島県規則第二十三号

介護保険法に基づく指定居宅サービス事業者の指定の申請者に関する事項並びに指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例

施行規則

目次

- 第一章 総則（第一条―第四条）
- 第二章 訪問介護（第五条―第二十三条）
- 第三章 訪問入浴介護（第二十四条―第二十六条）
- 第四章 訪問看護（第二十七条―第二十九条）
- 第五章 訪問リハビリテーション（第三十条・第三十一条）
- 第六章 居宅療養管理指導（第三十二条・第三十三条）
- 第七章 通所介護（第三十四条―第四十二条）
- 第八章 通所リハビリテーション（第四十三条―第四十五条）
- 第九章 短期入所生活介護（第四十六条―第五十八条）
- 第十章 短期入所療養介護（第五十九条―第六十六条）
- 第十一章 特定施設入居者生活介護（第六十七条―第七十八条）
- 第十二章 福祉用具貸与（第七十九条―第八十五条）
- 第十三章 特定福祉用具販売（第八十六条―第八十八条）

附則

第一章 総則

（趣旨）

第一条 この規則は、介護保険法に基づく指定居宅サービス事業者の指定の申請者に関する事項並びに指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例（平成二十四年広島県条例第六十八号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第二条 この規則で使用する用語は、条例で使用する用語の例による。

（文書の交付に代わる重要事項の提供方法等）

第三条 条例第九条（条例第三十二条、条例第四十三条、条例第四十七条、条例第六十一条、条例第七十条、条例第七十八条、条例第九十条、条例第九十九条、条例第一百零八条、条例第一百九条、条例第二百一十一条及び条例第二百二十条において準用する場合を含む。）、条

例第九十七条、条例第二百二十四条（条例第四百五条、条例第五百十一条及び条例第六百六十四條（条例第七百七十四條において準用する場合を含む。）において準用する場合を含む。）、条例第七百七十九條第一項及び条例第九十四條第一項の規則で定める明示方法は、利用申込者又はその家族の希望に基づき、電子情報処理組織（利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機と当該利用申込者から居宅サービスの提供の申込を受けた者（以下この条において「申込先事業者」という。）の電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法（以下この条において「電磁的方法」という。）であつて次に掲げる方法により提供する方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げる方法

イ 電磁的記録を申込先事業者の使用に係る電子計算機と利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 申込先事業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された電磁的記録を電気通信回線を通じて利用申込者又はその家族の閲覧に供し、当該利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該電磁的記録を記録する方法

二 磁気ディスク、シー・デー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物をもって調製するファイルに電磁的記録を記録した物を交付する方法

2 利用申込者又はその家族が第四項の承諾をし、又は当該承諾をしない旨の申出をした場合には、前項第一号ロに掲げる方法による提供をしようとする申込先事業者は、その旨を申込先事業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録しなければならない。

3 第一項に掲げる方法は、利用申込者又はその家族がファイルに記録された事項を出力することにより文書を作成することができるものでなければならない。

4 申込先事業者は、第一項の方法による提供をしようとするときは、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、次に掲げる事項を示し、当該方法による提供についての文書又は電磁的方法による承諾を得なければならない。

一 第一項各号に規定する方法のうち申込先事業者が使用する方法

二 ファイルへの記録の方式

5 前項の承諾を得た申込先事業者は、当該承諾を得た後であっても、当該利用申込者又はその家族から文書又は電磁的方法により第一項の方法による提供を受けない旨の申出があったときは、当該利用申込者又はその家族に対し、利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を文書を交付する方法により明示しなければならない。

（居宅サービス計画に含まれる計画）

第四条 条例第十三条（条例第三十二条、条例第四十三条、条例第四十七条、条例第六十一

条、条例第七十条、条例第七十八条、条例第九十条、条例第一百五条、条例第九十九条、条例第一百八条、条例第三十四条（条例第四十五条において準用する場合を含む。）、条例第五十一条、条例第六十四条（条例第七十四条において準用する場合を含む。）、条例第二百九条、条例第二十一条及び条例第二百二十条において準用する場合を含む。）の規則で定める計画は、介護保険法施行規則（平成十一年厚生省令第三十六号。以下「法施行規則」という。）第六十四条第一号ハ及びニに規定する計画とする。

第二章 訪問介護

（サービス提供責任者の要件）

第五条 条例第六条第四項の規則で定める者は、次に掲げる者とする。

- 一 社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律（平成十九年法律第二百二十五号）附則第二条第二項の規定により行うことができることとされた同法第三条の規定による改正後の社会福祉士及び介護福祉士法（昭和六十二年法律第三十号）第四十条第二項第五号の規定による指定を受けた学校又は養成施設において六月以上介護福祉士として必要な知識及び技能を習得した者
- 二 介護保険法施行規則の一部を改正する省令（平成二十四年厚生労働省令第二十五号。以下「一部改正省令」という。）による改正前の法施行規則第二十二条の二十三第一項に規定する介護職員基礎研修課程又は一級課程を修了した者
- 三 三年以上介護等の業務に従事した者であって、一部改正省令による改正前の法施行規則第二十二条の二十三第一項に規定する二級課程を修了した者

（要介護認定の申請に係る援助）

第六条 指定訪問介護事業者は、要介護認定を受けていない者から指定訪問介護の提供の申込みを受けた場合には、当該利用申込者に係る要介護認定の申請が行われているかどうかを確認しなければならない。

2 指定訪問介護事業者は、前項の申請が行われていない場合は、当該利用申込者の意思を踏まえて速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行わなければならない。

3 指定訪問介護事業者は、居宅介護支援（これに相当するサービスを含む。）が利用者に対して行われていない等の場合であって必要と認めるときは、当該利用者の要介護認定の更新の申請が、遅くとも当該利用者が受けている要介護認定の有効期間の満了日の三十日前までには行われるよう、必要な援助を行わなければならない。

（心身の状況等の把握）

第七条 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護の提供に当たっては、利用者に係るサービス担当者会議（条例第二十一条第三項第三号に規定するサービス担当者会議をいう。以下同じ。）等を通じて、利用者の心身の状況、置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めなければならない。

（居宅介護支援事業者等との連携）

第八条 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護の提供に当たっては、居宅介護支援事業者そ

の他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。

2 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護の提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、当該利用者に係る居宅介護支援事業者に対する情報の提供及び保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。

(法定代理受領サービスの提供を受けるための援助)

第九条 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護の提供の開始に際し、利用申込者が法第四十条第六項の厚生労働省令で定める場合に該当しないときは、当該利用申込者又はその家族に対し、居宅サービス計画の作成を居宅介護支援事業者に依頼する旨を市町村に届け出ること等により、指定訪問介護の提供を法定代理受領サービスとして受けることができる旨を説明すること、居宅介護支援事業者に関する情報を提供することその他の法定代理受領サービスを行うために必要な援助を行わなければならない。

(居宅サービス計画等の変更の援助)

第十条 指定訪問介護事業者は、利用者が居宅サービス計画の変更を希望する場合は、当該利用者に係る居宅介護支援事業者への連絡その他の必要な援助を行わなければならない。

(身分を証する書類の携行)

第十一条 指定訪問介護事業者は、訪問介護員等に身分を証する書類を携行させ、初回訪問時及び利用者又はその家族から求められたときは、これを提示すべき旨を指導しなければならない。

(サービスの提供の記録)

第十二条 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護を提供した際には、当該指定訪問介護の提供日及び内容、当該指定訪問介護について法第四十一条第六項の規定により利用者に代わって支払を受ける居宅介護サービス費の額その他必要な事項を、当該利用者の居宅サービス計画を記載した書面又はこれに準ずる書面に記載しなければならない。

(保険給付の請求のための証明書の交付)

第十三条 指定訪問介護事業者は、法定代理受領サービスに該当しない指定訪問介護に係る利用料の支払を受けた場合は、提供した指定訪問介護の内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者に交付しなければならない。

(利用者に関する市町村への通知)

第十四条 指定訪問介護事業者は、利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知しなければならない。

一 正当な理由なく指定訪問介護の利用に関する指示に従わないことにより、要介護状態の程度を増進させたと認められる場合

二 偽りその他不正の行為によって保険給付を受け、又は受けようとした場合
(勤務体制の確保等)

第十五条 指定訪問介護事業者は、利用者に対し、適切な指定訪問介護を提供することができよう、指定訪問介護事業所ごとに、訪問介護員等の勤務の体制を定めておかなければならない。

2 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護事業所ごとに、当該指定訪問介護事業所の訪問介護員等によって指定訪問介護を提供しなければならない。

3 指定訪問介護事業者は、訪問介護員等に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保しなければならない。

(衛生管理等)

第十六条 指定訪問介護事業者は、訪問介護員等の清潔の保持及び健康状態について、必要な管理を行わなければならない。

2 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護事業所の設備及び備品等について、衛生的な管理に努めなければならない。

(重要事項の揭示)

第十七条 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護事業所の見やすい場所に、条例第二十二條に規定する重要事項に関する規程の概要、訪問介護員等の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を揭示しなければならない。

(広告)

第十八条 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護事業所について広告をする場合は、その内容を虚偽又は誇大なものとしてはならない。

(地域との連携)

第十九条 指定訪問介護事業者は、提供した指定訪問介護に関する利用者からの苦情に関して市町村が行う事業その他の市町村が実施する事業に協力するよう努めなければならない。

(会計の区分)

第二十条 指定訪問介護事業者は、指定訪問介護事業所ごとに経理を区分するとともに、指定訪問介護の事業の会計とその他の事業の会計とを区分しなければならない。

(記録の整備)

第二十一条 指定訪問介護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定訪問介護事業者は、利用者に対する指定訪問介護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 訪問介護計画 当該訪問介護計画期間の終了日

二 条例第十四条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 前号に規定する

終了日

三 条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当

該記録に係る対応を終了した日

五 第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日
(管理者の責務)

第二十二条 指定訪問介護事業所の管理者は、当該指定訪問介護事業所の従業者がこの章に規定する事項を遵守させるため必要な指揮命令を行うものとする。

(基準該当訪問介護の事業に関する準用)

第二十三条 第六条から第八条まで及び第十条から前条までの規定は、基準該当訪問介護の事業について準用する。この場合において、第十二条中「内容、当該指定訪問介護について法第四十一条第六項の規定により利用者に代わって支払を受ける居宅介護サービス費の額」とあるのは「内容」と、第十三条中「法定代理受領サービスに該当しない指定訪問介護」とあるのは「基準該当訪問介護」と、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第三十二条において準用する条例第二十二條」と、第二十一条第二項第二号中「条例第十四条」とあるのは「条例第三十二條において準用する条例第十四條」と、同項第三号中「条例第二十六條第二項」とあるのは「条例第三十二條において準用する条例第二十六條第二項」と、同項第四号中「条例第二十七條第二項」とあるのは「条例第三十二條において準用する条例第二十七條第二項」と、同項第五号中「第十四條」とあるのは「第二十三條において準用する第十四條」と読み替えるものとする。

第三章 訪問入浴介護

(記録の整備)

第二十四条 指定訪問入浴介護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定訪問入浴介護事業者は、利用者に対する指定訪問入浴介護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 条例第四十三条において準用する条例第十四条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 当該記録に係るサービスを提供した日

二 条例第四十三条において準用する条例第二十六條第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

三 条例第四十三条において準用する条例第二十七條第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(準用)

第二十五条 第六条から第二十条まで及び第二十二條の規定は、指定訪問入浴介護の事業について準用する。この場合において、第十一条及び第十五條から第十七條までの規定中「訪問介護員等」とあるのは「訪問入浴介護従業者」と、第十六条第二項中「設備及び備品等」とあるのは「指定訪問入浴介護に用いる浴槽その他の設備及び備品等」と、第十七條

中「条例第二十二條」とあるのは「条例第四十二條」と読み替えるものとする。

(基準該当訪問入浴介護の事業に関する準用)

第二十六條 第六條から第八條まで、第十條から第二十條まで、第二十二條及び第二十四條の規定は、基準該当訪問入浴介護の事業について準用する。この場合において、第十一條及び第十五條から第十七條までの規定中「訪問介護員等」とあるのは「訪問入浴介護従業者」と、第十二條中「内容、当該指定訪問介護について法第四十一條第六項の規定により利用者に代わって支払を受ける居宅介護サービス費の額」とあるのは「内容」と、第十三條中「法定代理受領サービスに該当しない指定訪問介護」とあるのは「基準該当訪問入浴介護」と、第十六條第二項中「設備及び備品等」とあるのは「基準該当訪問入浴介護に用いる浴槽その他の設備及び備品等」と、第十七條中「条例第二十二條」とあるのは「条例第四十七條において準用する条例第四十二條」と、第二十四條第二項第一号から第三号までの規定中「条例第四十三條」とあるのは「条例第四十七條」と、同項第四号中「次条」とあるのは「第二十六條」と読み替えるものとする。

第四章 訪問看護

(居宅介護支援事業者等との連携)

第二十七條 指定訪問看護事業者は、指定訪問看護の提供に当たっては、居宅介護支援事業者その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。

2 指定訪問看護事業者は、指定訪問看護の提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、主治の医師及び居宅介護支援事業者に対する情報の提供並びに保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。

(記録の整備)

第二十八條 指定訪問看護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定訪問看護事業者は、利用者に対する指定訪問看護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

- 一 条例第五十六條第二項に規定する主治の医師による指示の文書 当該指示によるサービスの提供を終了した日
- 二 訪問看護計画書 当該訪問看護計画書の計画期間の終了日
- 三 訪問看護報告書 当該訪問看護報告書を主治の医師に提出した日
- 四 条例第六十一條において準用する条例第十四條に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 第二号に規定する終了日
- 五 条例第六十一條において準用する条例第二十六條第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日
- 六 条例第六十一條において準用する条例第二十七條第二項に規定する事故の状況及び事

故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

七 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(準用)

第二十九条 第六条、第七条、第九条から第二十条まで及び第二十二条の規定は、指定訪問看護の事業について準用する。この場合において、第七条中「心身の状況」とあるのは「心身の状況、病歴」と、第十一条中「訪問介護員等」とあるのは「看護師等（条例第四十九条第一項に規定する看護師等をいう。以下同じ。）」と、第十五条から第十七条までの規定中「訪問介護員等」とあるのは「看護師等」と、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第六十条」と読み替えるものとする。

第五章 訪問リハビリテーション

(記録の整備)

第三十条 指定訪問リハビリテーション事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定訪問リハビリテーション事業者は、利用者に対する指定訪問リハビリテーションの提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

- 一 訪問リハビリテーション計画 当該訪問リハビリテーション計画の計画期間の終了日
- 二 条例第七十条において準用する条例第十四条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 前号に規定する終了日
- 三 条例第七十条において準用する条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日
- 四 条例第七十条において準用する条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日
- 五 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(準用)

第三十一条 第六条、第七条、第九条から第十七条まで、第十九条、第二十条、第二十一条及び第二十七条の規定は、指定訪問リハビリテーションの事業について準用する。この場合において、第七条中「心身の状況」とあるのは「心身の状況、病歴」と、第十一条中「訪問介護員等」とあるのは「理学療法士等（条例第六十三条第一項に規定する理学療法士等をいう。以下同じ。）」と、第十五条から第十七条までの規定中「訪問介護員等」とあるのは「理学療法士等」と、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第六十九条」と読み替えるものとする。

第六章 居宅療養管理指導

(記録の整備)

第三十二条 指定居宅療養管理指導事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定居宅療養管理指導事業者は、利用者に対する指定居宅療養管理指導の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

- 1 条例第七十八条において準用する条例第十四条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 当該記録に係るサービスを提供した日

二 条例第七十八条において準用する条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

三 条例第七十八条において準用する条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(準用)

第三十三条 第六条、第七条、第十一条から十七条まで、第十九条、第二十条、第二十一条及び第二十七条の規定は、指定居宅療養管理指導の事業について準用する。この場合において、第七条中「心身の状況」とあるのは「心身の状況、病歴、服薬歴」と、第十一条及び第十五条から第十七条までの規定中「訪問介護員等」とあるのは「居宅療養管理指導従業者」と、第十一条中「初回訪問時及び利用者」とあるのは「利用者」と、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第七十七条」と読み替えるものとする。

第七章 通所介護

(勤務体制の確保等)

第三十四条 指定通所介護事業者（指定療養通所介護事業者を除く。以下同じ。）は、利用者に対し、適切な指定通所介護を提供することができるよう、指定通所介護事業所ごとに、従業者の勤務の体制を定めておかなければならない。

2 指定通所介護事業者は、指定通所介護事業所ごとに、当該指定通所介護事業所の従業者によって指定通所介護を提供しなければならない。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りでない。

3 指定通所介護事業者は、通所介護従業者に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保しなければならない。

(衛生管理等)

第三十五条 指定通所介護事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講じなければならない。

2 指定通所介護事業者は、当該指定通所介護事業所における感染症の発生及びまん延の防止のため、必要な措置を講じるよう努めなければならない。

(記録の整備)

第三十六条 指定通所介護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備し

ておかなければならない。

2 指定通所介護事業者は、利用者に対する指定通所介護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 通所介護計画 当該通所介護計画の計画期間の終了日
二 条例第九十条において準用する条例第十四条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 前号に規定する終了日

三 条例第九十条において準用する条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 条例第九十条において準用する条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

五 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(準用)

第三十七条 第六条から第十条まで、第十二条から第十四条まで、第十七条から第二十条まで及び第二十二条の規定は、指定通所介護の事業（指定療養通所介護の事業を除く。）について準用する。この場合において、第十七条中「条例第二十二條」とあるのは「条例第八十七條」と、「訪問介護員等」とあるのは「通所介護従業者」と読み替えるものとする。（指定療養通所介護の事業に関する心身の状況等の把握）

第三十八条 指定療養通所介護事業者は、指定療養通所介護の提供に当たっては、利用者に係るサービス担当者会議等を通じて、利用者の心身の状況、置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めなければならない。

2 指定療養通所介護事業者は、利用者の体調の変化等に応じた適切なサービスを提供できるように、特に主治の医師及び当該利用者が利用する訪問看護事業者（条例第九十二条第二項に規定する訪問看護事業者をいう。）等との密接な連携を図り、利用者の心身の状況等の把握に努めなければならない。

(指定療養通所介護の事業に関する居宅介護支援事業者等との連携)

第三十九条 指定療養通所介護事業者は、指定療養通所介護の提供に当たっては、居宅介護支援事業者その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。

2 指定療養通所介護事業者は、利用者に対する指定療養通所介護の提供の適否を、主治の医師を含めたサービス担当者会議において検討するため、当該利用者に係る居宅介護支援事業者に必要な情報を提供するように努めなければならない。

3 指定療養通所介護事業者は、利用者に係る居宅介護支援事業者に、居宅サービス計画の作成及び変更等に必要な情報を提供するように努めなければならない。

4 指定療養通所介護事業者は、指定療養通所介護の提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、当該利用者に係る居宅介護支援事業者に対す

る情報の提供及び保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。

(指定療養通所介護の事業に関する記録の整備)

第四十条 指定療養通所介護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定療養通所介護事業者は、利用者に対する指定療養通所介護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

- 一 療養通所介護計画 当該療養通所介護計画の計画期間の終了日
- 二 条例第百四条第二項に規定する検討の結果についての記録 当該記録に係る対応を終了した日
- 三 条例第百五条において準用する条例第十四条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 第一号に規定する終了日
- 四 条例第百五条において準用する条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日
- 五 条例第百五条において準用する条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日
- 六 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(指定療養通所介護の事業に関する準用)

第四十一条 第六条、第九条、第十条、第十二条から第十四条まで、第十七条から第二十条まで、第二十二條、第三十四條及び第三十五條の規定は、指定療養通所介護の事業について準用する。この場合において、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第二百二条」と、「訪問介護員等」とあるのは「療養通所介護従業者」と、第三十四條第三項中「通所介護従業者」とあるのは「療養通所介護従業者」と読み替えるものとする。

(基準該当通所介護の事業に関する準用)

第四十二条 第六条から第八条まで、第十条、第十二条から第十四条まで、第十七条から第二十条まで、第二十二條及び第三十四條から第三十六條までの規定は、基準該当通所介護の事業について準用する。この場合において、第十二条中「内容、当該指定訪問介護について法第四十一条第六項の規定により利用者に代わって支払を受ける居宅介護サービス費の額」とあるのは「内容」と、第十三条中「法定代理受領サービスに該当しない指定訪問介護」とあるのは「基準該当通所介護」と、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第百九条において準用する条例第八十七条」と、「訪問介護員等」とあるのは「通所介護従業者」と、第三十六條第二項第二号から第四号までの規定中「条例第九十条」とあるのは「条例第百九条」と、同項第五号中「次条」とあるのは「第四十二条」と読み替えるものとする。

第八章 通所リハビリテーション

(衛生管理等)

第四十三条 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講じるとともに、医薬品及び医療機器の管理を適正に行わなければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、当該指定通所リハビリテーション事業所における感染症の発生及びまん延の防止のため、必要な措置を講じるよう努めなければならない。
(記録の整備)

第四十四条 指定通所リハビリテーション事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者に対する指定通所リハビリテーションの提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 通所リハビリテーション計画 当該通所リハビリテーション計画の計画期間の終了日
二 条例第百十八条において準用する条例第十四条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 前号に規定する終了日

三 条例第百十八条において準用する条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 条例第百十八条において準用する条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

五 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(準用)

第四十五条 第六条、第七条、第九条、第十条、第十二条から第十四条まで、第十七条、第十九条、第二十条、第二十二条、第二十七条及び第三十四条の規定は、指定通所リハビリテーションの事業について準用する。この場合において、第七条中「心身の状況」とあるのは「心身の状況、病歴」と、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第百十七条」と、「訪問介護員等」とあるのは「通所リハビリテーション従業者」と、第二十二條中「管理者」とあるのは「管理者(条例第百十六条第一項の規定により管理を代行する者を含む。)」と、第三十四条第三項中「通所介護従業者」とあるのは「通所リハビリテーション従業者」と読み替えるものとする。

第九章 短期入所生活介護
(食事)

第四十六条 指定短期入所生活介護事業者(ユニット型指定短期入所生活介護事業者を除く。以下同じ。)は、栄養並びに利用者の心身の状況及び嗜好を考慮した食事を、適切な時間に提供しなければならない。

2 指定短期入所生活介護事業者は、利用者が可能な限り離床して、食堂で食事をとること

を支援しなければならない。

(健康管理)

第四十七条 指定短期入所生活介護事業所（ユニット型指定短期入所生活介護事業所を除く。）の医師及び看護職員は、常に利用者の健康の状況に注意するとともに、健康保持のための適切な措置を講じなければならない。

(相談及び援助)

第四十八条 指定短期入所生活介護事業者は、常に利用者の心身の状況、置かれている環境等の確な把握に努め、利用者又はその家族からの相談に適切に応じるとともに、これら者に対する必要な助言その他の援助を行わなければならない。

(その他のサービスの提供)

第四十九条 指定短期入所生活介護事業者は、教養又は娯楽に供する設備等を備えるほか、適宜利用者のためのレクリエーション行事を行わなければならない。

2 指定短期入所生活介護事業者は、常に利用者の家族との連携を図るよう努めなければならない。

(地域等との連携)

第五十条 指定短期入所生活介護事業者は、指定短期入所生活介護の事業の運営に当たっては、地域住民と連携し、及び協力するなど、地域との交流に努めなければならない。

(記録の整備)

第五十一条 指定短期入所生活介護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定短期入所生活介護事業者は、利用者に対する指定短期入所生活介護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 短期入所生活介護計画 当該短期入所生活介護計画の計画期間の終了日

二 条例第三十四条において準用する条例第十四条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 前項に規定する終了日

三 条例第二十七条第五項に規定する身体拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 条例第三十四条において準用する条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

五 条例第三十四条において準用する条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

六 次条において準用する条例第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(準用)

第五十二条 第六条、第七条、第九条、第十二条から第十四条まで、第十七条から第二十条まで、第二十二條、第三十四条及び第三十五条の規定は、指定短期入所生活介護の事業（

ユニット型指定短期入所生活介護の事業を除く。)について準用する。この場合において、第十七条中「条例第二十二條」とあるのは「条例第三百二十二條」と、「訪問介護員等」とあるのは「短期入所生活介護従業者」と、第三十四條第三項中「通所介護従業者」とあるのは「短期入所生活介護従業者」と読み替えるものとする。

(ユニット型指定短期入所生活介護の事業に関する食事)

第五十三條 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、栄養並びに利用者の心身の状況及び嗜好を考慮した食事を提供しなければならない。

2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者の心身の状況に応じて、適切な方法により、食事の自立について必要な支援を行わなければならない。

3 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者の生活習慣を尊重した適切な時間に食事を提供するとともに、利用者がその心身の状況に応じてできる限り自立して食事をとることができるよう必要な時間を確保しなければならない。

4 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者が、相互に社会的関係を築くことができるよう、利用者の意思を尊重しつつ、共同生活室で食事をとることを支援しなければならない。

(ユニット型指定短期入所生活介護の事業に関するその他のサービスの提供)

第五十四條 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者のし好に応じた趣味、教養又は娯楽に係る活動の機会を提供するとともに、利用者が自律的に行うこれらの活動を支援しなければならない。

2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、常に利用者の家族との連携を図るよう努めなければならない。

(ユニット型指定短期入所生活介護の事業に関する勤務体制の確保等)

第五十五條 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者に対し、適切なユニット型指定短期入所生活介護を提供することができるよう、ユニット型指定短期入所生活介護事業所ごとに、従業者の勤務の体制を定めておかなければならない。

2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、短期入所生活介護従業者に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保しなければならない。

(ユニット型指定短期入所生活介護の事業に関する準用)

第五十六條 第四十七條、第四十八條及び第五十條から第五十二條(第三十四條の準用に係る部分を除く。)までの規定は、ユニット型指定短期入所生活介護の事業について準用する。この場合において、第五十一條第二項第二号、第四号及び第五号中「条例第三百三十四條」とあるのは「条例第四百十五條において準用する条例第三百三十四條」と、同項第三号中「条例第二百二十七條第五項」とあるのは「条例第四百十條第七項」と、同項第六号中「次条」とあるのは「第五十六條において準用する第五十二條」と、第五十二條中「条例第三百二十二條」とあるのは「条例第四百二十二條」と読み替えるものとする。

(基準該当短期入所生活介護の事業に関する指定通所介護事業所等との連携)

第五十七条 基準該当短期入所生活介護事業者は、基準該当短期入所生活介護の提供に際し、常に条例第四百六十六条に規定する指定通所介護事業所等との間の連携及び支援の体制を整えなければならない。

(基準該当短期入所生活介護の事業に関する準用)

第五十八条 第六条、第七条、第十二条から第十四条まで、第十七条から第二十条まで、第二十二條、第三十四條、第三十五條及び第四十六條から第五十一條までの規定は、基準該当短期入所生活介護の事業について準用する。この場合において、第十二条中「内容、当該指定訪問介護について法第四十一条第六項の規定により利用者に代わって支払を受ける居宅介護サービス費の額」とあるのは「内容」と、第十三条中「法定代理受領サービスに該当しない指定訪問介護」とあるのは「基準該当短期入所生活介護」と、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第五十一条において準用する第三百三十二条」と、「訪問介護員等」とあるのは「短期入所生活介護従業者」と、第三十四条第三項中「通所介護従業者」とあるのは「短期入所生活介護従業者」と、第四十七条中「医師及び看護職員」とあるのは「看護職員」と、第五十一条第二項第二号、第四号及び第五号中「条例第三百三十四條」とあるのは「条例第五百一十一條」と、同項第三号中「条例第二百二十七條第五項」とあるのは「条例第五百一十一條において準用する条例第二百二十七條第五項」と、同項第六号中「次條」とあるのは「第五十八條」と読み替えるものとする。

第十章 短期入所療養介護

(食事の提供)

第五十九条 指定短期入所療養介護事業者（ユニット型指定短期入所療養介護事業者を除く。以下同じ。）は、栄養並びに利用者の身体の状態、病状及び嗜好を考慮した食事を適切な時間に提供しなければならない。

2 指定短期入所療養介護事業者は、利用者の自立の支援に配慮し、利用者が、できる限り離床して食堂で食事を行うよう努めなければならない。

(その他のサービスの提供)

第六十条 指定短期入所療養介護事業者は、適宜利用者のためのレクリエーション行事を行うよう努めるものとする。

2 指定短期入所療養介護事業者は、常に利用者の家族との連携を図るよう努めなければならない。

(記録の整備)

第六十一条 指定短期入所療養介護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかななければならない。

2 指定短期入所療養介護事業者は、利用者に対する指定短期入所療養介護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 短期入所療養介護計画 当該短期入所療養介護計画の計画期間の終了日

二 条例第六十四条において準用する条例第十四条に規定する提供した具体的なサービス

スの内容等の記録 前号に規定する終了日

三 条例第五十七條第五項に規定する身体拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 条例第六十四條において準用する条例第二十六條第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

五 条例第六十四條において準用する条例第二十七條第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

六 次条において準用する第十四條の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(準用)

第六十二條 第六條、第七條、第九條、第十二條から第十四條まで、第十七條、第十九條、第二十條、第二十二條、第三十四條、第四十三條及び第五十條の規定は、指定短期入所療養介護の事業(ユニット型指定短期入所療養介護の事業を除く。)について準用する。この場合において、第十七條中「条例第二十二條」あるのは「条例第六十二條」と、「訪問介護員等」とあるのは「短期入所療養介護従業者」と、第三十四條第三項中「通所介護従業者」とあるのは「短期入所療養介護従業者」と読み替えるものとする。

(ユニット型指定短期入所療養介護の事業に関する食事)

第六十三條 ユニット型指定短期入所療養介護事業者は、栄養並びに利用者の心身の状況及び嗜好を考慮した食事を提供しなければならない。

2 ユニット型指定短期入所療養介護事業者は、利用者の心身の状況に応じて、適切な方法により、食事の自立について必要な支援を行わなければならない。

3 ユニット型指定短期入所療養介護事業者は、利用者の生活習慣を尊重した適切な時間に食事を提供するとともに、利用者がその心身の状況に応じてできる限り自立して食事をとることができるよう必要な時間を確保しなければならない。

4 ユニット型指定短期入所療養介護事業者は、利用者が、相互に社会的関係を築くことができるよう、利用者の意思を尊重しつつ、共同生活室で食事をとることを支援しなければならない。

(ユニット型指定短期入所療養介護の事業に関するその他のサービスの提供)

第六十四條 ユニット型指定短期入所療養介護事業者は、利用者のし好に応じた趣味、教養又は娯楽に係る活動の機会を提供するとともに、利用者が自律的に行うこれらの活動を支援しなければならない。

2 ユニット型指定短期入所療養介護事業者は、常に利用者の家族との連携を図るよう努めなければならない。

(ユニット型指定短期入所療養介護の事業に関する勤務体制の確保等)

第六十五條 ユニット型指定短期入所療養介護事業者は、利用者に対し、適切なユニット型指定短期入所療養介護を提供することができるよう、ユニット型指定短期入所療養介護事

業所ごとに、従業者の勤務の体制を定めておかなければならない。

2 ユニット型指定短期入所療養介護事業者は、短期入所療養介護従業者に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保しなければならない。

(ユニット型指定短期入所療養介護の事業に関する準用)

第六十六条 第六十一条及び第六十二条(第三十四条の準用に係る部分を除く。)の規定は、ユニット型指定短期入所療養介護の事業について準用する。この場合において、第六十一条第二項第二号、第四号及び第五号中「条例第六十四条」とあるのは「条例第七十四条において準用する条例第六十四条」と、同項第三号中「条例第五十七条第五項」とあるのは「条例第六十九条第七項」と、同項第六号中「次条」とあるのは「第六十六条において準用する第六十二条」と、第六十二条中「条例第六十二条」とあるのは「条例第七十一条」と読み替えるものとする。

第十一章 特定施設入居者生活介護

(従業者)

第六十七条 条例第七十六条第三項第二号イの規則で定める数は、次に掲げる数の合計数とする。

一 利用者及び介護予防サービスの利用者(条例第七十六条第三項第一号に規定する介護予防サービスの利用者をいう。以下この条において同じ。)のうち要介護認定等に係る介護認定審査会による審査及び判定の基準等に関する省令(平成十一年厚生省令第五十八号。以下「認定省令」という。)第二条第一項第二号に規定する要支援状態区分に該当する者の数が三又はその端数を増すごとに一を加えて得た数

二 介護予防サービスの利用者のうち認定省令第二条第一項第一号に規定する要支援状態区分に該当する者の数が十又はその端数を増すごとに一を加えて得た数

(法定代理受領サービスを受けるための利用者の同意)

第六十八条 指定特定施設入居者生活介護事業者(外部サービス利用型指定特定施設入居者生活介護事業者を除く。以下同じ。)であつて老人福祉法(昭和三十八年法律第三百三十三号)第二十九条第一項に規定する有料老人ホームである指定特定施設において指定特定施設入居者生活介護(利用期間を定めて行うものを除く。以下この条において同じ。)を提供するものは、当該指定特定施設入居者生活介護を法定代理受領サービスとして提供する場合は、利用者の同意が当該法定代理受領サービスを提供するための条件であることを当該利用者に説明し、当該利用者の意思を確認しなければならない。

(サービスの提供の記録)

第六十九条 指定特定施設入居者生活介護事業者は、指定特定施設入居者生活介護の提供の開始に際しては当該開始の日及び利用者が入居している指定特定施設の名称を、指定特定施設入居者生活介護の提供の終了に際しては当該終了の日を、当該利用者の被保険者証に記載しなければならない。

(健康管理)

第七十条 指定特定施設（外部サービス利用型指定特定施設入居者生活介護を提供するものを除く。）の看護職員は、常に利用者の健康の状況に注意するとともに、利用者の健康保持のための適切な措置を講じなければならない。

（相談及び援助）

第七十一条 指定特定施設入居者生活介護事業者は、常に利用者の心身の状況、置かれている環境等の確かな把握に努め、利用者又はその家族からの相談に適切に応じるとともに、利用者の社会生活に必要な支援を行わなければならない。

（利用者の家族との連携等）

第七十二条 指定特定施設入居者生活介護事業者は、常に利用者の家族との連携を図るとともに、利用者とその家族との交流等の機会を確保するよう努めなければならない。

（勤務体制の確保等）

第七十三条 指定特定施設入居者生活介護事業者は、利用者に対し、適切な指定特定施設入居者生活介護その他のサービスを提供することができるよう、従業者の勤務の体制を定めておかななければならない。

2 指定特定施設入居者生活介護事業者は、当該指定特定施設の従業者によって指定特定施設入居者生活介護を提供しなければならない。ただし、当該指定特定施設入居者生活介護事業者が業務の管理及び指揮命令を確実に行うことができる場合は、この限りでない。

3 指定特定施設入居者生活介護事業者は、前項ただし書の規定により指定特定施設入居者生活介護に係る業務の全部又は一部を委託により他の事業者に行わせる場合は、当該事業者の業務の実施状況について定期的に確認し、当該確認の結果等を記録しなければならない。

4 指定特定施設入居者生活介護事業者は、特定施設従業者に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保しなければならない。

（地域との連携等）

第七十四条 指定特定施設入居者生活介護事業者は、地域住民と連携し、及び協力するなど、地域との交流に努めなければならない。

2 指定特定施設入居者生活介護事業者は、提供した指定特定施設入居者生活介護に関する利用者からの苦情に関して市町村が行う事業その他の市町村が実施する事業に協力するよう努めなければならない。

（記録の整備）

第七十五条 指定特定施設入居者生活介護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかななければならない。

2 指定特定施設入居者生活介護事業者は、利用者に対する指定特定施設入居者生活介護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 特定施設サービス計画 当該特定施設サービス計画の計画期間の終了日

二 条例第八十一条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 前号に規定する終了日

三 条例第八十三条第五項に規定する身体拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 条例第八十八条において準用する条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

五 条例第八十八条において準用する条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

六 第七十三条第三項に規定する結果等の記録 同項の規定による確認をした日

七 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

八 法施行規則第六十四条第三号に規定する書類 当該指定特定施設入居者生活介護の提供に係る契約の終了日

(準用)

第七十六条 第六条、第十三条、第十四条、第十七条から第二十条まで、第二十二条及び第三十五条の規定は、指定特定施設入居者生活介護の事業（外部サービス利用型指定特定施設入居者生活介護の事業を除く。）について準用する。この場合において、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第八十六条」と、「訪問介護員等」とあるのは「特定施設従業者」と読み替えるものとする。

(外部サービス利用型指定特定施設入居者生活介護の事業に関する記録の整備)

第七十七条 外部サービス利用型指定特定施設入居者生活介護事業者は、従業者、設備、用品、会計及び受託居宅サービス事業者に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 外部サービス利用型指定特定施設入居者生活介護事業者は、利用者に対する外部サービス利用型指定特定施設入居者生活介護の提供に關する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 特定施設サービス計画 当該特定施設サービス計画の計画期間の終了日

二 条例第九十五条第二項の規定により受託居宅サービス事業者から受けた報告に係る記録 当該報告の内容を確認した日

三 条例第九十七条第八項に規定する結果等の記録 同項の規定による確認をした日

四 条例第九十八条において準用する条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

五 条例第九十八条において準用する条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

六 条例第九十八条において準用する条例第八十一条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 第一号に規定する終了日

七 条例第九十八条において準用する条例第八十三条第五項に規定する身体拘束等の

態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録 当該記録に係る対応を終了した日

八 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

九 次条において準用する第七十三条第三項に規定する結果等の記録 同項の規定による確認をした日

十 法施行規則第六十四条第三号に規定する書類 当該特定施設入居者生活介護の提供に係る契約の終了日

(外部サービス利用型指定特定施設入居者生活介護の事業に関する準用)

第七十八条 第六条、第十三条、第十四条、第十七条から第二十条まで、第二十二条、第三十五条、第六十八条、第六十九条及び第七十一条から第七十三条までの規定は、外部サービス利用型指定特定施設入居者生活介護の事業について準用する。この場合において、第十七条中「条例第二十二条」とあるのは「条例第九十六条」と、「訪問介護員等」とあるのは「外部サービス利用型特定施設従業者」と、第七十三条第一項中「適切な指定特定施設入居者生活介護」とあるのは「適切な基本サービス」と、同条第二項中「指定特定施設入居者生活介護を」とあるのは「基本サービスを」と、同条第三項中「指定特定施設入居者生活介護に」とあるのは「基本サービスに」と読み替えるものとする。

第十二章 福祉用具貸与

(福祉用具の保管又は消毒の委託等)

第七十九条 条例第二百二条第一項(条例第二百十一条において準用する場合を含む。)の規則で定める方法は、次に掲げる基準を満たす方法により、福祉用具の保管又は消毒を他の事業者へ委託等する方法とする。

一 福祉用具(条例第九十九条に規定する福祉用具をいう。以下この章において同じ。)
()の保管又は消毒を他の事業者へ委託等する契約の内容において、当該保管又は消毒が適切な方法により行われることを担保すること。

二 福祉用具の保管又は消毒を行わせる他の事業者の業務の実施状況を定期的に確認し、当該確認の結果等を記録すること。

(適切な研修の機会の確保)

第八十条 指定福祉用具貸与事業者は、福祉用具専門相談員に対し、その資質の向上のために、福祉用具に関する適切な研修の機会を確保しなければならない。

(衛生管理等)

第八十一条 指定福祉用具貸与事業者は、従業者の清潔の保持及び健康状態について、必要な管理を行わなければならない。

2 指定福祉用具貸与事業者は、回収した福祉用具を、その種類、材質等からみて適切な消毒効果を有する方法により速やかに消毒するとともに、既に消毒が行われた福祉用具と消毒が行われていない福祉用具とを区分して保管しなければならない。ただし、第七十九条

に規定する方法により福祉用具の保管又は消毒を他の事業者に行わせる場合には、この限りでない。

3 指定福祉用具貸与事業者は、指定福祉用具貸与事業所の設備及び備品について、衛生的な管理に努めなければならない。

(重要事項の揭示及び目録の備え付け)

第八十二条 指定福祉用具貸与事業者は、指定福祉用具貸与事業所の見やすい場所に、条例第二十七条に規定する重要事項に関する規程の概要その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を揭示しなければならない。

2 指定福祉用具貸与事業者は、利用者の福祉用具の選択に資するため、指定福祉用具貸与事業所に、当該指定福祉用具貸与事業所の取り扱う福祉用具の品名及び品名ごとの利用料その他の必要事項が記載された目録等を備え付けなければならない。

(記録の整備)

第八十三条 指定福祉用具貸与事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定福祉用具貸与事業者は、利用者に対する指定福祉用具貸与の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 福祉用具貸与計画 当該福祉用具貸与計画の計画期間の終了日

二 条例第二十九条において準用する条例第十四条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 前号に規定する終了日

三 条例第二十九条において準用する条例第二十六条第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 条例第二十九条において準用する条例第二十七条第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

五 第七十九条第二号に規定する結果等の記録 同項の規定による確認をした日

六 次条において準用する第十四条の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に係る対応を終了した日

(準用)

第八十四条 第六条から第十四条まで、第十八条から第二十条まで、第二十二条及び第三十条第一項及び第二項の規定は、指定福祉用具貸与の事業について準用する。この場合において、第八条第二項ただし書き中「家族に対して適切な指導」とあるのは「家族からの相談に適切に応じるとともに、これらの者に適切な助言」と、第十一条中「訪問介護員等」とあるのは「従業者」と、「初回訪問時及び利用者」とあるのは「利用者」と、第十二条中「提供日及び内容」とあるのは「提供の開始日及び終了日並びに種目及び品名」と、第十三条中「内容」とあるのは「種目、品名」と、第三十四条第二項中「処遇」とあるのは「サービスの利用」と読み替えるものとする。

(基準該当福祉用具貸与の事業に関する準用)

第八十五条 第六条から第八条まで、第十条から第十四条まで、第十八条から第二十条まで、第二十二條、第三十四條第一項及び第二項並びに第八十條から第八十三條までの規定は、基準該当福祉用具貸与の事業について準用する。この場合において第八條第二項中「家族に対して適切な指導」とあるのは「家族からの相談に適切に応じるとともに、これらの者に適切な助言」と、第十一條中「訪問介護員等」とあるのは「従業者」と、「初回訪問時及び利用者」とあるのは「利用者」と、第十二條中「提供日及び内容、当該指定訪問介護について法第四十一條第六項の規定により利用者に代わって支払を受ける居宅介護サービス費の額」とあるのは「提供の開始日及び終了日並びに種目及び品名」と、第十三條中「法定代理受領サービスに該当しない指定訪問介護」とあるのは「基準該当福祉用具貸与」と、「内容」とあるのは「種目、品名」と、第三十四條第二項ただし書き中「処遇」とあるのは「サービスの利用」と、第八十二條中「條例第二百七條」とあるのは「條例第二百十一條において準用する條例第二百七條」と、第八十三條第二項第二号から第四号までの規定中「條例第二百九條」とあるのは「條例第二百十一條」と、同項第六号中「次條」とあるのは「第八十五條」と読み替えるものとする。

第十三章 特定福祉用具販売

(保険給付の申請に必要な書類の交付)

第八十六條 指定特定福祉用具販売事業者は、指定特定福祉用具販売に係る販売費用の額（以下「販売費用の額」という。）の支払を受けた場合は、次に掲げる書面を利用者に交付しなければならない。

一 当該指定特定福祉用具販売事業所の名称、販売した特定福祉用具の種目及び品目の名称、販売費用の額その他必要と認められる事項を記載した証明書

二 領収書

三 当該特定福祉用具のパンフレットその他の当該特定福祉用具の概要を記載した書面（記録の整備）

第八十七條 指定特定福祉用具販売事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定特定福祉用具販売事業者は、利用者に対する指定特定福祉用具販売の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該各号に定める日から二年間保存しなければならない。

一 特定福祉用具販売計画 当該特定福祉用具販売計画の計画期間の終了日

二 條例第二百十六條に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録 前号に規定する終了日

三 條例第二百二十條において準用する條例第二十六條第二項に規定する苦情の内容等の記録 当該記録に係る対応を終了した日

四 條例第二百二十條において準用する條例第二十七條第二項に規定する事故の状況及び事故に際して講じた措置の記録 当該記録に係る対応を終了した日

五 次條において準用する第十四條の規定による市町村への通知に係る記録 当該記録に

係る対応を終了した日

(準用)

第八十八条 第六条から第八条まで、第十条、第十一条、第十四条、第十六条、第十八条から第二十条まで、第二十二條、第三十四條第一項及び第二項、第八十条及び第八十二条の規定は、指定特定福祉用具販売の事業について準用する。この場合において、第八條第二項中「家族に対して適切な指導」とあるのは「家族からの相談に適切に応じるとともに、これらの者に適切な助言」と、第十一条中「訪問介護員等」とあるのは「従業者」と、「初回訪問時及び利用者」とあるのは「利用者」と、第三十四條第二項中「処遇」とあるのは「サービスの利用」と、第八十条及び第八十二条第二項中「福祉用具」とあるのは「特定福祉用具」と、第八十二条第一項中「条例第二百七条」とあるのは「条例第二百二十条において準用する条例第二百七条」と読み替えるものとする。

附 則

この規則は、平成二十五年四月一日から施行する。